

# 理窓会の皆様へ

～世界で最も魅力のある大学を目指して～

学校法人東京理科大学  
理事長 中根 滋



陽春の候、理窓会の皆様におかれましては、ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。人口の減少・国内経済の低成長・企業のグローバル化により、大学を取り巻く環境も予断を許さない処ですが、本学は今年も期待どおりの質・量の新生を迎えることができました。これも皆様の日頃からのご支援の賜物と、法人を代表して深く感謝申し上げます。

さて、2015年度がスタートいたしました。皆様ご存知のとおり、2014年度は中長期計画の実行初年度であり、東京理科大学にとって21世紀の基礎を補強した一年でした。4月には国際競争力を高め、独創的な研究開発を推進する目的で、「研究戦略・産学連携センター」を新設し、前文部科学省事務次官であった森口泰孝副学長がセンター長に就任しました。5月下旬には、マレーシアの第4代首相であったマハティール閣下に本学のアジアに於けるグローバルアドバイザーを、更にMITスローン経営大学院のマイケル・クスマノ教授には経営学部のWORLD CLASS化と本学をINNOVATIONの世界拠点とする構想のグローバルアドバイザーを引き受けていただきました。本学が世界のエベレストに登るためには、優秀なシェルパが必要不可欠です。この上ない二人のアドバイザーを得ることができたことは「世界の理科大」を目指す上で、非常に重要な一歩です。昨年は私自身何度もマレーシアに足を運び、マハティール閣下をはじめ、マレーシアの副首相・教育相などとも面会し、アジアにおける教育事情について勉強させていただきました。また、MITのクスマノ教授には本学に複数回足をお運びいただ

き、ワーキングセッションを通じてMITモデルの習得について勉強を重ねました。

世界が注目する魅力ある大学を目指す改革の一つとして、2016年度に工学部と経営学部を再編します。工学部第一部と第二部が新たに「工学部」として生まれ変わり、情報分野への教育・研究を強化した情報工学科を新設する予定です。また、飯田橋富士見に移転が決定した新「経営学部」は従来の経営学科に加え、新たにビジネスエコノミクス学科を創設し2学科となります。新設のビジネスエコノミクス学科では、理科大ならではの数理数量的アプローチを駆使し、市場を創造できるデータサイエンティスト等を育成、輩出していく予定です。卒業生は金融、情報、サービス、通信、公務員など幅広い業種で活躍することを期待します。昨年10月には、アントレプレナーシップ(起業家精神)学部教育において20年連続米国トップのバブソン大学と提携契約を締結しました。世界で活躍できる経営人育成をめざし、理科大ならではの「経営科学」の発展と世界の最先端を見据えたビジョンがまさに今動き出し始めるところで

さて、グローバル化の巨大なうねりの中で、世界では情報通信技術もめまぐるしいスピードで進化しています。IT、もしくはICTは大学などの高等教育機関ではもちろんのこと、今日では小学校や中学校などの初等教育や中等教育の場でも広く活用されています。文部科学省はすべての小中高等学校などが各学級の授業においてコンピュータを活用できるよう様々な施策を推し進めており、実際

に、全小中学校の授業でタブレット端末を導入することを決定した市町村も増えてきているようです。

IoTという言葉をご存知でしょうか。Internet of Things、人間に加えて、すべての「もの」がインターネットにつながり始めます。パソコン等従来のIT機器だけではなく、スマートフォン・タブレットなどのスマート・コネクテッド端末はもちろんのこと、身の回りのすべてのものをインターネットに繋いでしまおうというビジョンです。本学でも4月から学生のインターネット環境を刷新し、「VLE」と呼ばれるポータルシステムを導入しています。これにより学生はLive Classroomや学内SNSなど電子化された様々な情報をどこからでも得ることができるようになります。また、大学と同窓生の結びつきを更に強めようと、昨年よりインターネットグループウェアサービス「e TUS Community ネットワークシステム」を開始しています。「メールサービス」「アドレス帳管理」「スケジュール管理機能」を生涯無料で使用できるサービスで、@alumni.tus.ac.jpの生涯アドレスを皆様にご利用いただけます。既に同窓間や大学とのやり取りでご活用いただいている方も多と思います。大学と同窓生の結びつき強化のサービス拡充も、これからますます進めて参ります。

私が理事長に就任してから、昨年12月で丸2年が経過しました。就任当初は学生時代から大きく変貌した学内事情にとまどうこともありました。私が通学していた野田キャンパスも、今では薬学棟や光触媒国際研究センター、THE CONVERGENCE, GLOBAL URA CENTERなど最新の施設が林立し、その姿は大きく様変わりしました。キャンパスを歩く学生の姿もどこか昔見慣れたものとは違うように感じました。しかし、創立当初から脈々と受け継がれる「実力主義」の伝統は全く変わらないのだと、日を重ねる毎に強く感じています。月日は経とうとも、東京理科大学の学生は真面目に、しなやかに、そして創造力を持って、よく勉学に励んでくれています。入口

の偏差値は私の頃と比べて10ポイント以上向上しており、また出口では就職率、進学率共に100%を超えています。

先日、長万部と久喜のキャンパスで、学生諸君に講義をしました。私自身の学生時代のこと、企業に入り一社員として学んだこと、その後経営者となってから心がけていたこと、そして理科大に対する思いなど、後輩に対する期待などを話しました。講義終了後の質疑応答では積極的に次々と手が上がり、質問の内容は、人生の在り方、組織の上に立つ者の心構えなど多種多様でした。是非留学したいという声も実に多く、学生がいかに探究心や野心、積極性を持っているのかを肌で感じることができました。講義終了後に回収したアンケートでは、「漠然と勉強をしてきたが、夢を持って努力することがとても大切だと知った」「大学生のうちにたくさん失敗して、たくさん学んでいなくてはならない」など、嬉しい反応を多数いただきました。将来に希望を持ってはいるが、あと一歩が踏み出せずにいた若者の背中を少しでも押せたのではないかと思います。同窓の皆様にも、このような情熱を持った後輩が大勢いるということを知って頂き、本学の卒業生であることを誇りに感じてもらえれば、こんなに嬉しいことはありません。

東京理科大学の改革はこれからです。理科大が世界のエベレストの頂点に立つ為の様々な努力を重ねていきますが、同窓の皆様のご協力が欠かせません。継続的なご支援の下で法人・大学一丸となって皆様の期待に応え、卒業生であることをもっともっと誇りに思っ頂ける大学づくりに努力します。

同窓の皆様には、引き続きご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。末筆ながら皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈りいたします。